

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	H.A	学部・学科	国際教養学部
学 年	2 年	派遣国	オーストリア
派遣大学	ウィーン大学		
コース名	第2クォータープログラム German Summer Intensive Courses		
期 間	2026 年 8 月 2 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は月曜日から金曜日の 9:00～11:45 までで、間に休憩が 30 分あった。授業では教科書や先生が用意した資料を使ってドイツ語を学んだ。レベルは A1/1 でドイツ語の挨拶から分離動詞までを学習した。ペアで作業することが多く、先生と生徒の会話も多かった。文法だけでなくリスニングやスピーキングなどそれぞれのスキルをまんべんなく鍛えられる内容だった。毎日 3 ページほど教科書の後ろにある問題集から宿題が出されたが量が多すぎるということにはなかった。またライティングの宿題もあり、翌日には添削したものが返却されるのでそこでライティングを鍛えることができた。

最終週では最終テストが2日間にかけて行われた。1 日目はリーディング、ライティング、リスニングで、2 日目はスピーキングのテストが行われた。テストの範囲やその内容が伝えられ、対策のプリントももらうことができたので難しすぎるということにはなかった。

この授業で印象に残ったのは教科書だけにとらわれない授業スタイルである。日本での授業は主に教科書にあることに忠実に進めていく印象があるが現地では先生が用意したゲームやプリントを使って内容を進めていくことが多かった。例えばすごろくを使って止まったマスに書かれてある主語に合わせて動詞を変化させたり、教室を回ってペアをどんどん変えていきながらスピーキングの練習をしたりと、飽きないかつわかりやすいやり方で自然とドイツ語の文法を身につけることができた。

また、先生と生徒の会話が多かったことも印象に残った。朝の挨拶は欠かさず、授業では解いた問題は先生が答えを言うのではなく生徒が積極的に発言していた。たまに雑談をはさんでオーストリアの文化や他の海外の文化を学べるような時間もあった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業の内容は日本で勉強したことの復讐にはなったがそのおかげでよりドイツ語が定着したと思う。ドイツ語の知識だけでなく現地の文化や海外から来た学生の授業に対する姿勢など学ぶことが多かった。実際の会話で使われる表現を学んだり、学生同士で会話をしたりする機会が多く教科書だけではわからない言葉の使い方を知ることができた。また海外から来た学生は授業中にわからないことがあったときに自分から質問したり、積極的に発言したりしていて、間違いを恐れずに行動することの大切さも学んだ。また今回はオーストリアでドイツ語を学んだので日本で学ぶドイツ由来のドイツ語とオーストリアのドイツ語の発音や言葉の微妙な違いを感じ取ることができて面白かった。またドイツ語以外のところで学んだことは英語の大切さである。今回は 14 人中 6 人が日本人で他は海外の生徒だったが、母国語ではないのにもかかわらずみんな当たり前のように英語で会話をしていた。しかし、日本人は日本人同士で固まってしまい、英語で交流をしているところがほとんど見られなかったため、日本人の英語の弱さのようなものを痛感した。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、海外の大学で授業を受けることに楽しみな気持ちがある一方で、授業についていけるのか、外国語で自分の意見を伝えられるのかという不安もあった。しかし、実際に授業を受けてみると、最初は聞き取れなかった言葉も徐々に理解できるようになり、自分から発言することへの抵抗もなくなった。また、さまざまな国から来た学生と一緒に授業を受ける中で、自分とは異なる考え方や価値観に触れることができ、海外で学ぶことの楽しさを実感した。特に、間違いを恐れずに話してみることが大切だと感じるようになり、以前よりも積極的に行動できるようになった。留学前は「外国語を上手に話さなければならない」という気持ちが強かったが、留学後は、完璧に話すことよりも、自分の考えを伝えようとする姿勢が大切だと思うようになった。今回の経験を通して、語学に対する自身だけでなく、新しい環境に挑戦することへの自身も得ることができた。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で得た経験を、今後の学業に生かしていきたい。特に、外国語を学ぶ際には、単に単語や文法を覚えるだけでなく、実際に使ってみることが大切だと感じたため、これからは授業で学んだことを積極的に使うようにしたい。また、留学中にさまざまな国の学生と関わったことで、異なる文化や価値観を知ることができた。この経験を生かし、大学での授業やゼミなどでも、自分とは異なる意見を受け入れながら、多角的に物事を考えることを意識したい。さらに、留学中は分からないことがあっても自分から質問することで理解を深めることができたため、今後の大学生活でも受け身にならず、積極的に学ぶ姿勢を大切にしたい。今回の留学を一時的な経験で終わらせるのではなく、今後の語学学習や大学での学びにつなげ、将来の進路について考える際にも生かしていきたい。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	S.Y	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	2 年	派遣国	オーストリア
派遣大学	ウィーン大学		
コース名	German Summer Intensive Course		
期 間	2026 年 8 月 3 日～ 2026 年 8 月 28 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

私は A1.2 のクラスに配属され、生徒は 14 人ほど。私含めた日本人 4 人とアメリカやウクライナ、トルコなど国も年齢もばらばらであった。授業は主に教科書を使用して行った。教科書は日本での授業同様すべてドイツ語でレベルごとに分かれていた。授業時間は 9 時から 11 時 45 分で、10 時半前後に 30 分の休憩がとられた。初回授業では自己紹介をかねて A1.1 の文法にも触れたあと教科書の内容を少し進めた。授業の進め方は、前半は習った文法の復習を行い後半に次の文法へ進むという流れだった。復習では、隣の人や先生が割り当てた同じ番号の人とペアを組んで配られたプリントを進めることが多かった。中でも印象的だったのは、生徒を 4 つほどにグループ分けした後、穴埋めのプリントが遠くの壁に貼られそれを順番に見に行き暗記をし、グループでまっさらな紙に完成された文を書き上げるというものだった。この方法は何度か行ったが体を動かしながら暗記をすることでより覚えやすくなるというものらしく、自分でも行ってみようと思った。同じグループの人と楽しく行うことができたと同時に、国によりドイツ語発音に違いがあり聞き取るのが難しかった。個人でプリントを進めることもあり、答え合わせの時は順番にあてられる時と自由に発言する時があった。日本人の生徒と比較してほかのクラスメイトは間違えることや発言することに抵抗がなく、間違えていた時にどうしてそうなるのかを積極的に質問する様子が見られた。教科書に沿って進みつつもペアワークで話したり、短い文を書いたりすることが多くより実践的な学習ができた。休憩時にはほかのクラスメイトは外へ行き日本人学生だけ教室に残る場合がほとんどで興味深かった。毎回授業時間の最後に宿題が提示され、教科書についているワークと短い作文が出された。ワークは先生により確認する場合としない場合があり、私のクラスではされなかった。その代わりにわからない部分について質問する時間がとられた。作文はほぼ毎回提出をし、次の日に添削されたものが返却された。授業はほぼすべてドイツ語で行われ、生徒が英語で質問した場合もドイツ語でわかるように説明していた。それでもわからなかった場合や重要事項を伝えるときは英語も使用された。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業の始めのほうは先生が指示していることがわからない場合も多かったけれど、後半になるにつれて聞き取れることが増えていったので継続して聞くことの重要性を実感した。また話している内容が理解できない場合でも、聞き取れないのではなく単語の意味が分からなくて理解できないということが増えたので、単語はもっと覚える必要があると思った。授業や宿題で文を書く機会が多かったためライティングには自信を持てるようになったし、それは最後のテストの結果にも表れていたと思う。成長を実感できたことで今後のモチベーションにもつながった。また他のクラスメイトから学んだことも多かった。私は日本でもドイツ語の授業を取っているのでも文法についてはある程度知識を持った状態だった。しかし A1.2 を習うのは初めてというクラスメイトたちののみこみがとても早く、すぐに理解できていたことに驚いた。そしてそれはわからない部分について積極的に質問したり、すぐに実践したりという主体的な授業姿勢からくるものだと感じ、私も見習いたいと強く思った。私はこれまで一年間ドイツ語を学んできたけれど他のクラスメイトのほうが単語やリスニングに優れていてもっと頑張ろうと改めて思うことができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

留学する前はドイツ語を話すことへの自信のなさから抵抗感があったけれど、たとえ間違えていたとしても案外伝わっているし自分の思っていることを伝えられた時の喜びの方がずっと大きいと実感できた。しかし言いたいことがあっても伝え方がわからないという場面も何度もあったし、逆に相手が言っていることがわからないという場面もあったので、もっとドイツ語を勉強してストレスなくコミュニケーションが取れるようになりたいと強く感じた。博物館などの展示の説明がわからないということも多く、悔しかったし単語をもっと知る必要があると思った。また、ほかのクラスメイトたちの様子からただ受動的に授業を受けるのではなく、主体的に積極的に参加することでよりスムーズに理解ができドイツ語の上達につながると思った。ウィーンでは英語を話せる人が多く、英語とドイツ語どちらがいいですかと聞かれる場面も多かった。どちらもまだまだな私からするとその質問をできることがかっこいいと思ったし、他のクラスメイトとうまく意思疎通できなかったことからドイツ語だけでなく英語も学んでいきたいと感じた。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

後期にもドイツ語を履修する予定なので、留学中に得た知識を忘れることなく継続的に学習していきたいと思う。毎日ドイツ語を聞いていたことはドイツ語学習にもしっかりと役立っていると思うし、もともとリスニングが苦手だった分ドイツ語を聞く習慣というのは特に継続していきたい。今回で A1 の内容には自信を持つことができたので春に A2 のゲート試験を受けることを目指して授業だけでなく自分でもどんどん学習を進めていきたい。留学期間中にドイツ語で日記を書くという取り組みを行っていて、単語や文法を覚えるのに効果があると感じたのでそれも継続していきたいと思う。